平成２８年７月１日発行
第１５号
京田辺市観光ボランティア
ガイド協会　広報部編集
☎　0774-68-2810

平成28年度事業計画について

平成28年度 第9回定期総会

平成28年度は、京田辺市観光ボランティアガイド協会（以下観光VG協会）設立10周年の節目の年となります。奇しくも本年、観光VG協会の窓口でありました京田辺市観光協会が社団法人として独立しました。この機に際し、本会は観光協会へ企業参画という形で参画し、協力団体として観光行政の一翼を担う事になりました。従って、現在、観光VG協会が目指している主たる目的から更に幅を広げて、観光行政全般への協力が必要となります。

以上の事を念頭に置き、平成28年度事業計画を立案し、実施します。今年度は、①観光ガイドの知識の拡大と質の向上を図り、ガイド力の向上を目指してメンバーの実地教育を強化します。②観光資源に関する知識を京田辺市民と共有するため、市民の皆さんも参画いただける勉強会、講習会を積極的に行います（3回程度／年）③新規ガイドコースとして、「聞く、見る」以外に「食べる、買う、触る」等の体験型ガイドを導入することや、近隣市町村の観光ガイド協会と協力して観光の範囲を広げて行きます。④メディアを利用した有効な広報活動を展開します。⑤事業の拡大を図るため、第6期生を募集します。養成講座を8月～9月に開催し、10月初旬からメンバーとして加わって頂きます。　（代表　藤野隆司）

お知らせ

観光ボランティアガイド養成講座

京田辺市の観光資源にご興味のある方々に、その魅力を知っていただく講座を開催します。

講座を受けてみられて、ご自分も観光客の皆さんにその魅力を伝えたいと希望される方には、講座終了後に入会手続きをいたします。

ぜひ、ご受講下さい。

時間＝各回　午前9時30分～11時30分。但し、
　8月25日･9月23日は午後4時まで（要昼食）
対象＝市内に住在、通勤、通学で18歳以上の人
定員＝先着40人　　**費用**＝無料
申込方法＝市観光案内所にある申込書を
　提出して下さい
申込･問合せ先＝京田辺市観光案内所
　（☎68－2810）

日にち･場所･内容

日にち	場所	内容
8月　4日(木)	中央公民館	京田辺市の概要・文化財
8月12日(金)		市内各地域の特色
8月18日(木)		市内の観光資源(松井・大住・岡村)
8月25日(木)	中央公民館 市内	市内の観光資源(薪) 市内見学
9月　1日(木)	中央公民館	市内の観光資源 (江津・三山木・多田羅)
9月　8日(木)		市内の観光資源(飯岡・草内)
9月15日(木)		市内の観光資源(天王・高船)
9月23日(金)	中央公民館 市内	市内の観光資源(古墳・名所・旧跡) 市内見学
9月29日(木)	中央公民館	閉講式・交流懇談会

シリーズ「玉露の話 ③」

○庶民の煎じ茶

覆下栽培を専有のものとした宇治のお茶（抹茶）は、禅宗・武士・茶の湯の三つとつながりながら発展していきましたが、長い間庶民のものとはなりませんでした。

庶民が飲んでいたと想像されるお茶は、中国緑茶とほぼ同様の製法による釜炒り茶か、茶葉を湯がきして、冷やし、絞った葉をむしろに広げて手足で揉み天日で乾かして作る、今の番茶、焙じ茶に類するもので、色は茶褐色、風味、香味とも劣る煎じ茶でした。

○煎じ茶から煎茶へ----宇治製法

このような煎じ茶が普及するにつれて、香りや味覚に対する良否、優劣が問われるようになり、煎じ茶の優品を望む時代へと変わっていきました。そのような時代背景の中で、宇治田原湯屋谷、永谷宗圓が「宇治製法」を創案するのです。

「宇治製法」と呼ばれる煎茶製法は、蒸した茶の新芽をいったん急激に冷却し、次いで高温の焙炉上の助炭の上で手もみしながら乾燥・整形するという製法で、色は緑（青）色を呈し、風味、香味にすぐれ「青製煎茶製法」と呼ばれました。

平等院北門前にある
宇治製茶記念碑

この宇治製法による煎茶は開港当初の貿易の花形商品となり、なかでも喜撰茶は、「泰平の眠りを覚ます正喜撰、たった四杯で夜も寝られず」の風刺歌が流布するほど、世人周知となっていました。この宇治製法は、後に横浜で開かれたわが国最初の製茶共進会（1879 年）において、「特別賞」が付与されました。

そして副賞金 200 円を元に全国から有志金 1 万円を募って井出町多賀村の巨石に久邇宮朝彦親王揮毫の「宇治製茶記念碑」を刻み、平等院内に建立されたのです。今は平等院北門前に移設されていますが、この碑に関心寄せる人は多くありません。

○煎茶から玉露へ――玉露の誕生

玉露は簡単に言えば、覆い下茶園の茶葉を煎茶と同じように揉んで作ったものです。覆下園の発達と、宇治製法を結びつけることによって、世界的な最高級の緑茶である、甘みとコクの豊かな「玉露」を生み出したのです。まさに生まれるべくして生まれたと、いうことができます。そのためか、それぞれの茶生産地域で、玉露創生に関する逸話が伝承されています。

○おわりに

例年 10 月には「茶の日」に因んで一休寺道で「茶まつり」が行われます。京田辺茶手もみ技術保存会による「手もみ製法の実演」や、京田辺茶業青年団による「おいしいお茶のいれ方教室」、「玉露の無料接待」など高級茶の魅力がアピールされます。農林水産大臣賞を何回も受賞している京田辺の玉露は日本一です。一人でも多くの人に、広く、深くこの玉露を味わってもらうことが今後の課題です。　（春）

ボランティアガイド日誌

平成28年4月2日 JRふれあいハイク「野花と桜並木に　古代の忿怒仏五大明王を訪ねる」

JR三山木駅から壽宝寺へ。実際に千本の手をお持ちの十一面千手千眼観音（重文）と三面六臂の金剛夜叉明王を拝観。中世の環濠集落跡が残る山本集落を抜け、条里制・山本駅跡石碑前では暫し古代に思いをはせました。

白山神社までの道すがら、野道や川辺に咲く春の野花の説明に、野花に興味を持たれた方々の花談義が聞こえてきて、「今回初めて、日本のタンポポと西洋タンポポの違いが分かりました」と喜ばれたご夫婦もいらっしゃいました。

市内最古の白山神社を後に、丹塗り春日造りの見事な社殿をもつ佐牙神社を参拝し、正福寺

では、今日の為に特別公開いただいた忿怒の明王三体（右手に剣、左手に絹索を持つ不動明王、ばさら印の軍荼利明王、水牛に乗る大威徳明王）を、堂宇内で間近に拝観し、その迫力に感嘆の声があがりました。また、本堂の阿弥陀三尊も拝観させていただきました。

正福寺の大威徳明王

ゴールのJR三山木駅をめざし、桜咲き誇る遠藤川の桜並木を歩きました。参加された方々は、爽やかな春の一日を満喫されたようで、「楽しかったわ」の嬉しい言葉もいただきました。（神山）

平成28年5月2日
草内小学校の飯岡古墳ガイド

草内小学校6年生57名を少人数6班に班分けし、「社会科」と「地域学習」の一環として飯岡古墳群をガイド6名で案内しました。

薬師山古墳、ゴロゴロ山古墳、飯岡車塚古墳や井戸（櫻井王の井戸、蓮華寺跡井戸）を現地で説明。他にも継体天皇のことや、古墳の種類、特徴、数などについても説明しました。

薬師山古墳にて

飯岡地区の生徒さんは2名だけということもあって、皆、興味深く聞いてくれました。

「511年に筒城宮として京田辺市に遷都された継体天皇の子孫のお墓が、こんなにも身近にあることを知り、興味津々でした。」と学校のホームページでも紹介していただきました。

暑い日にもかかわらず、学校から飯岡の往復約5kmの道のりを、生徒達も元気に歩いてくれて、楽しいガイドの一日でした。（柳生）

今後のJRふれあいハイクの見所

平成28年9月24日（土）
「初秋の甘南備山から平安京を望む」

初秋の甘南備山を歩きます。

集合はJR松井山手駅、午前9時20分。十三まいりで親しまれる虚空蔵堂を経て、沢歩きと滝の涼感を楽しんでいただきます。平安京の朱雀大路造営の目印という甘南備山【白石】を見学し、甘南備山の頂上の甘南備神社、そしてはるかに見える初秋の平安京に想いをはせつつ昼食です。そのあと誰が名付けたか『吉やんの滝』、一休寺、甘南備寺を見学し、JR京田辺駅で午後 3 時頃解散となります。距離は約12kmです。

甘南備山頂上からの眺望

甘南備山展望台から、はるかに見る平安京の面影、そして初秋の比叡山は絶景です。皆さんお楽しみに。（熊澤）

平成28年11月19日（土）
「錦秋のけいはんな三国越え 大人の遠足」
～里山・くろんど池・落羽松（らくうしょう）群生地を巡る～

京田辺からくろんど池を経て交野へ至る標高差約270m、行程約17kmの新コースです。

朝8時半頃、JR 同志社前駅を出発し、普賢寺小学校から高船の集落を目指します。途中、伝承地「傾城殺しの岩」や棚田などの里山風景が楽しめます。この道は5月30日開催の「ツアー・オブ・ジャパン」のコースでもありました。最高地点の笠上神社の先で奈良県に入り、ハイキングの人気スポット「くろんど池」に歩を進め、ここで昼食の予定です。後半の見どころは甘南備山にも自生している「ラクウショウ（落羽松）群生地」。湿地帯には木道が架けられていて歩きやすく、じっくり鑑賞もできます。「くろんど園地」の「八ッ橋」では、例年3月下旬に水芭蕉やカタクリが見ごろになるということです。

落羽松の群生地

その後は天野川支流沿いの安全な道を歩き、京阪私市駅、JR河内磐船駅へと向かい午後3時半頃に解散。皆さん、「錦秋のけいはんな三国越え」で大人の遠足を満喫しましょう。（古野）

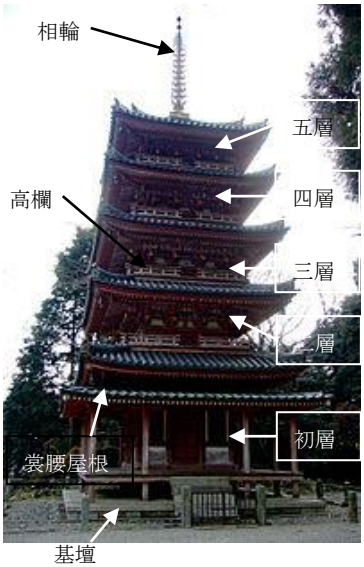
シリーズ「仏塔（塔）の知識 ②」

3、塔を構成する各部の名称

日本の神社仏閣（古建築）の各部の名称には聞き慣れない用語が多くあります。木津川市の海住山寺の五重塔を一例として説明します。

一般的に塔は建物の基礎となる基壇の上に建ち、初層、二層、三層・・・と積み上げられ、最上層の屋根の頂上に宝輪が立っています。

各層には高欄、裳腰屋根（もこしやね）などが施されている塔と建立時代に関係なく施されていない塔もあります。



海住山寺

●塔の軸部の広さは三間四方、又は五間四方ですが、（建物の柱と柱の間が 3 つあるのを三間といい、長さの単位ではありません。四方とは正四角形の建物を云います。）　中には長野県安楽寺のように八角三重塔（国宝）もあります。

各層には、戸（板唐戸、桟唐戸など）、窓（花頭窓、連子窓など）、高欄（ないものもある）、などがあり、軒下には組物（斗栱、束、蟇股など）が施され、時代が新しいほど美術性を目的とした装飾が施されています。

●塔の内部中心には、最上階から初層まで1本の心柱が貫いています。この心柱は相輪を支持するためのものですが、中には宙に浮いている場合があり、地震などの揺れに耐える構造になっているといわれています。

●各層には本瓦葺、檜皮葺の屋根が付いていますが、特殊な例として屋根の下に裳階屋根が付いている場合があります。元来は風雨から構造物を保護するために付けられたものですが、建物を実際より多層に見せることで外観の優美さを際立たせる効果があるため、特に寺院建築で好んで利用されました。

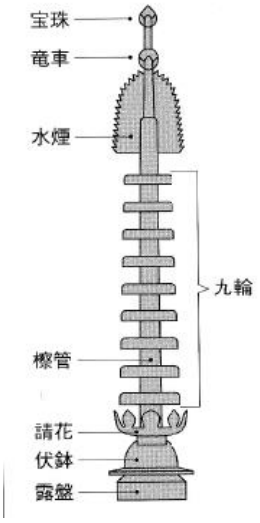
●相輪は釈迦の墳墓（ストゥーパ）を象徴するものであり、ある意味、塔で一番重要な所といわれています。上から

宝珠:財宝を得る宝の珠。如意宝珠

龍車（りゅうしゃ）:龍が常に釈迦の上空にいて洪水、風雨から守る。

水煙（すいえん）:火を忌み、同時に火を調伏する。水煙は火炎が一般的ですが、薬師寺東塔の水煙は飛天（空飛ぶ天女）です。このようによく観察すると色々の形があります。

九輪（くりん）:金剛界の五智如来（阿閦如来、宝生如来、阿弥陀如来、不空成就如来、大日如来）と四菩薩（天台宗系では阿弥陀如来の脇侍として金剛法、金剛利、金剛因、金剛語）を現わしている。寺院によっては、八輪（奈良市当麻寺、和歌山長保寺）、七輪（談山神社十三重塔）があります。



伏鉢（ふくはち）:インドの仏塔、ストゥーパを象徴するもの。

露盤（ろばん）:塔などの宝形造の屋頂にある四角い台。建立年月が記載されている事が多い。

●**逓減率**（ていげんりつ）

「最上層の幅÷初層の幅」で表され、その値が大きいほど美しい。法隆寺、醍醐寺の五重塔の逓減率は大きく大変美しい。　（藤野）